



しながわがくげい



令和6年度 1月号
品川学藝幼稚園
園長 関 幸 治

【明けましておめでとうございます】

令和7年（2025年）になりました。皆様おそろいで新年をお迎えのことと思います。今年は巳年「乙巳（きのとみ）」です。乙巳を検索してみましたら、「乙」は「いまだ発展途上の状態」を表し、「巳」は「植物が最大限まで成長した状態」を意味しているそうです。これまでの努力や準備が実を結び始める時期となります。今年度も残り3か月、子どもたち一人一人に充実した生活を送らせたいと思います。そして、進学、進級に備えたいと思います。教職員一同力いっぱい取り組んでまいります。どうぞ皆様方のお力添えをよろしくお願いいたします。（右上の写真は、7日の朝に見えた虹です。用務の柴田さんが撮影してくれました。）

12月26日には、卒園児（小学1年生）の同窓会を行いました。都合がつかず欠席した子もいましたが、ほぼ全員が集まりました。久しぶりに顔を合わせた子どもたちは、記念写真を撮ったり、ゲームをしたりして楽しいひと時を過ごしました。卒園して10か月、顔つきも体つきもやっぱり小学生になったと感じました。月日のたつのは本当に早いと思います。今年の夏には2年生としての同窓会を開きます。そして、12月には、今のまつ組の子どもたちの同窓会があります。どんな風に成長しているのでしょうか。今から楽しみです。

12月号でお知らせしましたが、園庭のミニトマトに実が付きました。寒さが厳しくなってきたのでどうかなと思っていましたが、どうにか無事だったようです。もともとトマトの発祥地はアンデス山脈といわれているので、もしかすると厳しい環境に耐えられる遺伝子があるのかもしれない。これからも見守っていきたいと思います。



お正月には・・・

上の孫がおせち作りに挑戦しました。何種類か作り、孫なりに頑張っていたようです。せっかくなので料理の由来も調べました。家にあった「おせち」という絵本を引っ張り出して孫と一緒に見ました。私自身知っていたつもりでしたが、改めてその由来を知ることができました。「きんとん」は、お金がいっぱいたまるように。「たたきごぼう」は、しっかり根を張り丈夫でいられるように。「たづくり」は、お米がたくさん



実るように。などなどでした。日本古来の伝統や風習が廃れてきている今、見直してみる大切さを学んだ気がします。

食べるものだけでなく、子どもたちが歌っている「お正月」に出てくるこま回し、凧揚げ、羽根つきなどの遊びも子どもたちにたくさん経験させたいと思います。



1月 指導のねらい

すみれ組

○ルールのある遊びを理解し、友達と一緒に楽しむ。

ばら組

○友達と思いや考えを伝え合いながら一緒に遊ぶ楽しさを味わう。

まつ組

○思いや考えを伝え合い、友達と協力して生活や遊びを工夫して進めていくことを楽しむ。



講師による指導（1月）

器楽指導

渡辺 正明先生 ばら組

英語指導

ジェマ ヘムス先生 ばら組 まつ組

体育指導

櫻井 由香先生 ばら組 すみれ組



○お知らせ

「高等学校卒業公演」

2月1日（土）は、品川学藝高等学校の卒業公演があります。毎年、年中ばら組の子どもたちが、幼児教育コースの生徒と一緒に出演しています。高校生が衣装を考え、子どもたちの体に合わせて作ってくれます。当日は土曜日なので、ばら組の子どもたちだけの登園となります。ばら組の保護者の皆様にはご多用の中をご協力いただきます。どうぞよろしくお願いいたします。なお、これに先立ち、1月29日（水）に卒業公演の練習している様子をばら組の保護者の皆様に公開いたします。子どもたちの頑張っている様子をぜひご覧いただければと思います。幼児教育コースの生徒が卒業すると、幼児教育コースがなくなります。今回は最後の卒業公演出演となります。

しながわがくけい 1月 睦月(むつき)の俳句

新しい年の始まりです。小寒、大寒と一年中で最も寒い日が続くとされていますが、それでも日差しには春を感じる事が少なくありません。

正月の 子どもになって みたき哉(小林一茶)

去年今年 貫く棒の 如きもの(高浜虚子)

初日さす 硯の海に 波もなく(正岡子規)

日本が ここに集まる 初詣(山口誓子)

膝にきて 模様を満たて 春着の子(中村草田男)

のんですぐ 背骨つらめく 寒の水(角川春樹)

寒雀 もんどい打って 飛びにけり(川端茅舎)

寒餅の とどきて雪と なりにけり(久保田万太郎)

門を出て 行先まどふ 雪見かな(永井荷風)

その匂ひ 桃より白し 水仙花(松尾芭蕉)

節分までの約一か月、天候や行事などに目を向けてみるのもいいかもしれません。